飯南ＤＮＡを守っていきたい

県立飯南高等学校　校長　吉田　彰二さん

吉田 彰二さん

当校の生徒数維持、魅力化、学力の向上をどのように進めていく考えか

生徒数の確保は小中学校の生徒数などを元にシミュレーションしています。本校の存続や2学級の維持を考えると、1学年の生徒数が60人を越えなければなりません。全校では180人を超えることを目標に、町内の生徒を確保した上で、町外・県外からの生徒の募集を進めていく考えです。

生徒や保護者は希望する進学や就職に対応できる学力を付けてもらえるかが大切です。さらに本校の進路の実績を高めることや部活動の成績が魅力につながっていきます。

学力に関しては少人数授業や個別指導などに力を入れています。本校は40代の教師が多く、豊富な経験や実績を積んでいます。生徒たちにとっては恵まれた環境だと思います。

部活動に関しては、テニスとハンドボールのコートが新設されました。本校に入学後はテニスをしたいと言っている中学生もいます。ハンドボールは正規の広いコートで練習できますので、今後、攻撃力などの力がついてくることが期待されます。また、ＯＢの方々の協力を得て、指導体制を整えたところです。

飯南高校が直面している課題は

町外・県外からの入学生を確保するためには、寮の定員がネックになります。町内の生徒数推移をみると、1学年の生徒数60人以上を維持するためには、さらに15人分程度の宿泊施設が必要になります。その場合、舎監などの管理者の増員も必要になります。

町民や町に望むこと

ホストファミリー制度は県外生が地域文化を勉強することができ、特色ある教育環境づくりにもつながるので、町民の皆さんに協力していただきたいと思います。県外生の卒業後の絆を保つためにも大切だと考えています。協力しながら交流を楽しみ絆を深めてもらうことを願っています。休日や閉寮期間などに寮生を受け入れてくださる家庭があればありがたいと思います。

現在の高校の体制をいつまでも維持するためには高校だけの努力では不可能です。若者の定住を図り、地元の子供を増やすことが本校の存続にかかわる重大事です。

飯南町の教育は「きめ細やかでぬくもりのある教育」です。この教育によって育った生徒たちが飯南高校の温かみのある校風をつないできました。地元の生徒が3割を切ると、校風を維持していく力が薄れ、培ってきた文化が失われることも考えられます。飯南ＤＮＡを守っていくためにも、生徒の半数は地元の生徒であることが望ましいと思います。

今月の表紙写真

以前はマイナースポーツであったハンドボールですが、今では飯南高校でも野球部と肩を並べる人気クラブで、学校の魅力の一つにもなっており、今年度も県大会で準優勝し、中国大会へ駒を進めました。伝統ある常勝への道は、OBや上級生の適切な指導や模擬試合の積み重ねの賜物なのです。新しい専用コートが備えられ、ますます練習のスキルが向上していくことは間違いないでしょう。

編集後記

議会広報誌は、議会改革の一環として、議会の活動状況を広く住民に提供することのみならず、住民と議会の意思疎通を図る機能を果たすことが期待されています。

しかし、議会は、広報紙が現実にどれ程の住民の方に読まれ、有効な情報源になっているのか知るすべを持ち合わせません。そこで重要になるのが議員一人ひとりの日常的な「広聴活動」であると思います。

住民と議員の良好な関係づくり、それにより議会への関心を高めてもらい、共により良い地域社会を作っていく機運を高めなければならないと痛感しています。

議会広報編集委員会　熊谷　兼樹

飯南町議会　島根県飯石郡飯南町下赤名880番地　飯南町議会事務局　TEL0854-76-2190　FAX0854-76-2867